



国民の森林・国有林

中部森林管理局

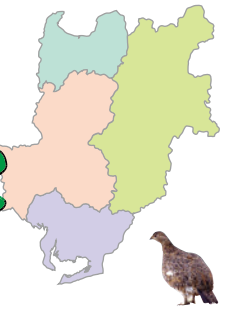
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



赤沢自然休養林の現地視察

「木曾悠久の森」の保存・復元に向けて 第一回管理委員会が開催される

主な項目	○ 平成27年度優良職員等に対する農林水産大臣賞贈呈式……………	P 2
	○ 各地からのたより……………	P 3
	○ シリーズ「森林官からの便り」……………	P 8
	○ シリーズ「ご当地自慢」……………	P 10

平成二十七年 度優良職員等に対する 農林水産大臣賞贈呈式

〔総務課〕 六月十五日、中部森林管理局局長室において、六月十九日、木曾署及び南木曾支署において、「平成二十七年 度優良職員等に対する農林水産大臣賞」の贈呈式が行われました。

この賞は、農林水産行政に顕著な業績を挙げた職員又は団体等を幅広く表彰し、職員の士気の高揚を図るとともに、業務効率及び行政サービスの向上等を図ることを目的として実施しています。

昨年七月に長野県南木曾町梨子沢で発生した土石流及び九月の御嶽山噴火に伴う災害対応にあたり、二次災害防止等の措置を迅速に実施し、地域住民の安全・安心の確保に大きく貢献したとして、局



表彰された局治山課の皆さん



木曾署を代表して表彰を受ける
松葉瀬署長 (左)



南木曾支署を代表して表彰を受ける
酒向支署長 (中央)

治山課、木曾森林管理署及び南木曾支署の職員が受賞しました。

岐阜県・愛知県 林政連絡会議を開催！

〔企画調整課・名古屋事務所〕

六月八日、愛知県自治センターにおいて、岐阜県・愛知県林政連絡会議を開催しました。

岐阜県から林政部（林政課、県産材流通課、森林整備課）十名、愛知県から農

林水産部（林務課、森林保全課、森と緑づくり推進室）十名、中部局からは十七名（企画調整課、森林整備課、資源活用課、技術普及課、名古屋事務所、岐阜署、愛知所、森林技術・支援センター）が出席しました。

この会議の目的は、中部局における施策の検討や民有林・国有林を通じた一体的な林政を展開するために、管内の四県との情報交換、意見調整の場等として開催されたものです。



冒頭挨拶する河野次長

冒頭挨拶に中部局・河野次長、岐阜県林政部高井次長、愛知県・高橋技監から挨拶を受け、その後、中部局、岐阜県及び愛知県から二十七年の事業概要説明がありました。また情報提供として中部

局からは○木材販売○造林の低コスト化に向けた取組、森林整備推進協定の締結状況○森林鳥獣対策の取組、研究機関との連携○分収林・官行造林○木材利用促進について、岐阜県から○木材利用促進の取組について、愛知県から○木材利用促進の取組○森林環境税（あいち森と緑づくり税）の取組についてそれぞれ説明を受け、意見交換に入りました。

意見交換では各機関から、木材の安定供給体制、苗木の需要見込みと安定供給体制及び民間事業体育成の取組について情報提供を行い、ぎふメディアコスモス開館情報、豊田市の大型製材工場公募開始・半田バイオマス情報、コンテナ苗などの意見が出されました。

この会議のほかにも県の研究機関等との連携なども強めています。年々関係機関における垣根が低くなってきていることを感じています。

今後も情報交換を通じて、地域の森林・林業の課題解決のための取組を進めていきます。

「木曾悠久の森」 管理委員会の開催

〔計画課〕 中部森林管理局では、世界的にも希少で貴重とされる「木曾地方の温帯性針葉樹林」の保存・復元を目指し、平成二十五年から有識者等による委員会を設けて検討を進めています。

今年度の第一回管理委員会は、六月

十八日から十九日にかけて現地視察を兼ねて行われました。これまで委員会の名称は、「木曾地方の温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組」管理委員会としていましたが、多くの皆様に親しみをもたれ覚え易い名称がよいと考へ、「木曾悠久の森」管理委員会に変更となりました。

現地視察では、三つの専門部会に分かれて、森林の状況を確認しながら意見交換が行われました。植生管理専門部会では、王滝国有林で漸伐（モザイク伐採）を行った箇所を天然下種更新の状況を確認し、森林資源利用専門部会では、阿寺国有林の一〇〇年を超える人工林の状況を、森林利用・地域振興専門部会では、赤沢自然休養林内の遊歩道から見える森林景観の状況を確認いただきました。



管理委員会の様子

全体会議は、木曾森林管理署において開催され、その後、三つの専門部会に分かれ、それぞれの部会の課題等について検討が行われました。

現在、「木曾悠久の森」のすばらしい景観やそこに息づく野生動物植物などを被写体とした写真コンテストの作品を八月二十一日必着として募集しています。応募締切まで一ヶ月程度となっており、多くの方からのご応募をお待ちしております。

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/ketaku/130926kentoinka.html>



各地からのたより

「岐阜署／森林技術・支援センター」

五月十四日、岐阜署管内の門坂国有林において「ヒノキコンテナ苗検討会」を開催したところ、県内の林業団体等約四十名の参加がありました。

コンテナ苗は、造林の低コスト化・省力化が図れるとして普及が期待されていますが、岐阜県内では生産、普及とも進んでいない状況にあります。

最初に岐阜署及び森林技術・支援センターから、コンテナ苗の特徴や国有林での利用実績、岐阜県森林研究所から、ヒノキコンテナ苗の規格や生産方法について説明を行いました。



クワの角度の違い

その後、岐阜署、森林技術・支援センター職員の指導の下、コンテナ苗用に開発された種々の植付器具や当センターが急傾斜地植栽用に改良したクワを使って植栽体験をしていただきました。参加者からは「植栽器具の違いがよくわかった」、「急斜面では改良クワが植えやすい」、「苗の運搬が課題では」等の感想や意見が出されました。



ディブルによる植栽

今後は、無地拵えや無下刈りによる初期保育の低コスト化や各種の植栽器具の作業効率、労力の軽減効果等について岐阜県森林研究所と共同で実証試験に着手し、地域に適したコンテナ苗の育苗やコンテナ苗を導入した造林技術の普及に取り組んでいくこととしています。

国有林作業現場等見学会を開催 東濃署管内の現場を

下流住民が見学

「名古屋事務所・東濃署」七月九日、一般公募により申し込みがあった川下に暮らす市民ら四十一名を対象として、上流部に位置する国有林作業現場の状況や木材産業の取組に触れる見学会を開催しました。

最初に訪れた湯舟沢国有林の復旧治山工事箇所では東濃署の治山担当職員が、過去の写真との対比を交えて工事概要を説明しました。梅雨真っ直中ということもあり時折雨が降るあいにくの天候で、現場は霧に覆われていましたが、何年にもわたって復旧されている状況を知り感心した様子でした。



出発地の展示館で挨拶をする河野所長

また、この現場近くにある「神坂大榎」を見学しその大きさに驚いていました。

次に、本年春にコンテナ苗を植栽した箇所と列状間伐を実施した箇所へ移動し、コンテナ苗とはどういう苗木なのか、植え方の特徴など、また、森林作業道と組み合わせた列状間伐の集材方法や使用する機械等について東濃署職員から写真を交えて説明しました。



主伐更新箇所で行った説明の様子

さらに、地域住民の要望と協力を得てヒノキだけでなくカエデなどの広葉樹を道路沿いに植栽するなど地域と連携した取組を紹介しました。

昼食を挟んで午後は恵那市に所在する協同組合東濃地域木材流通センター（通称・木Point）を見学しました。

金子理事長から組合が取り組んでいる各種活動の紹介やゼロエネルギー木造住宅の研究や意義について説明を受けました。



木Pointで木製品を視察する参加者

その後、木材倉庫に並べられた組合加盟各社の製品を見学した後、ゼロエネルギー木造住宅研究用として建てられたモデルハウスに移動し、エネルギー消費を減らすための工夫や材料について、説明を受けました。小さなエアコン一台で家中の空調を調節できたり、木材と土壁をうまく利用した家造りを体感しました。

見学者からは、柱や床、天井などにふんだんに木材を利用したゼロエネルギー住宅が推進できれば木材の利用拡大につながるという話も聞けた反面、見学に

参加した建築士さんからは、木材を使用したいが、単価が高くなり施工の要望に答えられない、といった話も聞かれました。

普段は、なかなか目にする機会がない川上の現場や関係者の取組に触れたことで、上下流の交流を深めるきっかけの一つになればと感じた見学会でした。

「下社御柱御用材伐採式」

諏訪大社御柱祭にむけて

「南信署」諏訪大社は、お諏訪さまとも呼ばれる諏訪神社の総本社で、上社と下社があり、上社には本宮（諏訪市）と前宮（茅野市）が、下社には秋宮と春宮（共に下諏訪町）が置かれています。この二社四宮の境内が諏訪湖を挟んで鎮座しています。

天下の大祭「諏訪大社式年造営 御柱祭」は、数えて七年（満六年）ごとに諏訪人二十二万人をあげて盛大に行われる大行事です。旧暦の干支年号である寅年、申年で、平成二十八年がそれに当たります。

五月十二日、来春の御柱祭に向け下社の春宮、秋宮に立てるモミの巨木八本の伐採式が東侯国国有林で開催されました。

当日は、朝方から霧が立ちこめ雨の心配がされる中、桂川局長、南信署関係者及び氏子ら約八百人が、それぞれ地区ごとの法被を身にまとい参加しました。

午前九時より春宮一之柱の前で神職に



斧入れを行う桂川局長

より清祓いの儀式が執り行われ、桂川局長及び花村署長等による斧入れの儀式を経て、古式にのっとり斧とのこぎりによる伐採作業が開始されました。

木遣り唄や「よいさ」のかけ声が響く中、「春宮一」の御用材が二時間掛け予定した方向に轟音とともに倒れると、伐採担当者や氏子衆から歓声が沸き起こ



伐倒される御用材

(5) 平成 27 年 7 月



木の再生を願う鳥総立ての神事

り、拍手と万歳が山にこだましました。今回の伐採式では残念ながら「春宮三」の候補木が腐朽により再伐採することとなりましたが、怪我人を一人も出さず残り七本の伐採が無事終了しました。御用材は、今秋頃に御柱の曳き出し地点となる棚木場まで仮搬出され、来年の祭り本番を待つこととなります。

北信州植樹祭（木島平村村政六十年・調布市交流三十周年記念植樹祭）

木島平村 ふう太の森

〔北信署〕六月六日、北信地域における健全な森林づくりと緑豊かな環境整備を進め、うるおいのある郷土づくりを推進することを目的とした「北信州植樹祭」が下高井郡木島平村の「ふう太の森」で、北信地方事務所管内のみどりの少年団、各市町村議会、関係機関の招待者等約五百名が参加して盛大に開催されました。

開会式では、主催者を代表して実行委員会会長である山ノ内町の竹節町長から

の挨拶の後、北信州林業賞と林業コンクール表彰が行われました。北信州林業賞受賞者を代表して木島平村中部財産管理会の藤原会長が「大変意義のある賞を受賞できた。」と感謝を述べました。



植樹の様子

また、みどりの少年団の活動報告では地元木島平小学校六年生が椎茸栽培、緑化苗木の頒布など学校等での取り組み状況をパネルで紹介しました。

式典終了後、植樹会場に移動し、オオヤマザクラ、ナナカマド、ヤマモミジ、イタヤカエデの四種類五百二十三本を全員で植栽しました。

今回の植樹祭は、木島平村の村政六十年記念と姉妹都市を結んでいる調布市

との交流三十周年記念を兼ねて開催されました。

あいにくの小雨模様でしたが、苗木には優しい天気となり、参加者の国土緑化への思いを汲み取って来春には可憐な花々を、秋には色鮮やかな紅葉を楽しませてくれることでしょう。

生産性向上

プロジェクト会議を開催

〔愛知所〕六月二十三日、愛知県設楽町の段戸国有林内において、中部森林管理局、愛知森林管理事務所、愛知県、名古屋大学、新城森林組合から三十四名が参加し、生産性向上プロジェクト会議を開催しました。

本会議は、林業生産事業者の木材生産能力の向上を目的として、中部森林管理局が取り組んでいる「生産性向上プログラム」の一環として行われたものです。



スライドによる概要説明の様子

当日はあいにくの曇り空でしたが、所担当者による「生産性向上プログラム」と請負事業者主幹による事業概要などの説明後、現地での検討に入りました。



事業実行箇所での現地検討

参加者からは「運搬距離の長い森林作業道は他の森林作業道と接続して効率性を図ったかどうか」、「集積土場を分散してはどうか」、「高性能林業機械の稼働率を上げるため、オペレーターを交代制にしたかどうか、故障の修理を作業員が行えないか」などの意見が出され、活発な討論が行われました。

また、詳細な作業日報を愛知県、名古屋大学と共有、分析し、事業実行に反映していくこととしました。

今後も事業実行中並びに事業終了後の現地検討会の開催を通じて、請負事業者や民有林と一体となった取り組みを推進していくこととしています。

「つけち森林の市」 盛大に開催される

「東濃署」五月三日から五日の三日間、「つけち森林の市」が中津川市付知町の「裏木曾街道公園」イベント広場で開催され、東濃森林管理署も参加しました。「つけち森林の市」は、林業が盛んなこの地域の地場産業である木工業や建築業を広くPRするとともに、資源としての森林や木の大切さを考え、地域振興を図ろうと、当時の付知町商工会と付知営林署などが協力して始めたイベントで、今年で二十五回目となります。



開会式を彩る「木曳音頭」

今回は、恒例の木の器をテーマとした木工品コンテストや産直住宅建築組合による木造家屋建前披露、地元産の木工製品や素材・原木の販売をはじめ、チェーンソーアートの実演、さらに全国育樹祭

記念行事「二〇〇年の森づくりリレー」の出発式、広報「中部の森林」第一三四号で紹介した姫路城西の心柱「運命の木」のレプリカ展示など盛りだくさんの内容となりました。

初日は、汗ばむほどの陽気で、県内外から多くの方が訪れ、「二〇〇年の森づくりリレー」、「木曳音頭」、「おんぼい節」、「フラメンコ舞踊」等の催しに大勢の観客から歓声があがりました。

また、普段は丸太の積み降ろしなどを行うグラップルと呼ばれる林業用重機が登場し人気を集めました。角材を積み上げたタワーを崩さないように一片を抜き取って最上段に重ねる「ジェンガ」では、大きなグラップルが優しく角材をつまみ数分ずつ動かす妙技に息をのみ、子どもたちから大きな声援が贈られました。

また、器用な筆さばきで習字も披露し、オペレーターが盛んな拍手を受けていました。

当署は、ヒノキ間伐材の丸太切り体験、鉛筆立て作り、チェーンソーの目立、パネル展示（木曾悠久の森、木曾ヒノキ備林、治山工事等の紹介）という内容で出展し、約百名の子どもたちが訪れました。

職員の指導のもと、真剣な表情でのこぎりを握ってヒノキ丸太を約6センチの長さで切り、ドリルで鉛筆立て用の穴を開けてもらった後、自分の好きな絵を描い



当署ブースの丸太切り体験

翌日は朝からあいにくの天候でしたが、当署のブースは約八十名の子どもたちで賑わい、なかには、何回も来て丸太切りに挑戦し鉛筆立ての絵付けを楽しむ小学生もいました。

最終日は再び好天に恵まれ、地元で人気のラジオDJ二人の軽妙なトーク、コンテスト入選作の表彰、建前実演された建屋のオークション、もち投げなどで盛り上がりしました。

期間中に約二万人が来場し、当署のブースにも多くの親子連れや児童・生徒に来ていただき、森林管理署の仕事や国有林の役割、森林・林業について理解を深めていただく良い機会となりました。

積雪地における シカ防護柵の実証

【飛騨署】六月十八日・十九日、中山山及び滝ヶ洞国有林において、獣害対策の効果とコストを検証するため、従来型（耐雪用支柱）と埼玉方式型のシカ防護

柵を設置しました。設置にあたっては、防護柵を開発した各社の指導を受けながら、参加者二十名（林野庁一名、中部局三名、森林技術・支援センター二名、飛騨署十四名）全員で実施しました。飛騨署では、分収育林の販売に伴って、平成二十五年度から更新（地持・植付）作業を行うこととなり、獣害対策としてシカ防護柵の導入を図ってきました。しかし、昨年末からの豪雪によって、一部地域において、シカ防護柵は壊滅的な被害を受けました。



雪により折損したヒノキ支柱

被害の状況は、リードロープ及びガイドロープの緩みや切断、支柱であるヒノキローリング杭（径八センチ）の傾斜・埋まり及び折損、アンカー杭の引き抜けや折損等です。

今後、主伐量が増大するなか、獣害対策は喫緊の課題となりますが、特に豪雪地域にあつては、耐雪式シカ防護柵の開

発が重要となります。

山中山国有林では、埼玉方式型の実証地を二箇所（FRP製支柱径三三ミリと三八ミリで比較対象）、滝ヶ洞国有林では、埼玉方式型と東工コーセン開発の耐雪用支柱を使用した従来型の実証地をそれぞれ設定しました。今後、鈍引沢及び黒内国有林においても実証地を設定する予定です。



埼玉方式型シカ防護柵の設置

参加者は「巻結び」に四苦八苦、ネットがからまないよう二〜三名で声を掛け合いながら作業を進めました。埼玉方式型は従来型と比較して、軽量で設置しやすいことが実感できました。

課題は、雪に対する強度や耐久性です。飛騨署では、ツリーシェルター（サブリガードネット）についても試験的に設置しましたが、これも雪によって壊滅

状態となりました。今回の実証試験の結果が得られるのは来春ですが、メンテナンスや撤去・廃棄にかかるコスト、施工上の課題の把握や検証など中部局や森林技術・支援センターと連携して取り組みます。

犬山中学校総合学習への支援 （協議会・NPOとの連携支援）

【木曾署】愛知県犬山市立犬山中学校の二年生二二五名が、二泊三日の日程で木曾総合学習を実施し、当署管内の国有林には五月十九日、二十日の二日間訪れました。

初日は、赤沢自然休養林内において三班に分かれての林業体験を行いました。一班は遊歩道に木材チップの敷設作業を、二班は遊歩道付近にヤマザクラの苗木を植樹する作業を、三班は熊の皮剥ぎ被害防止テープ巻作業を中心に実施しました。実施に当たっては、「赤沢溪谷を



チップ敷設による遊歩道の整備

美しくする保護管理協議会」と当署が共同で活動を支援しました。

生徒の多くが疲れた様子でしたが、やり遂げた充実感で満ちていました。その後、生徒は五人程度の班に分かれ木曾地域の製材工場や木工所などを訪問し地域経済等について学習しました。

二日目は、木祖村にある小木曾国有林の「水木沢郷土の森」において、天然林の見学を行い、こちらは「NPO法人木曾川・水の始発駅」と当署が共同で支援しました。自然散策を実施した後、活発な質疑応答が交わされ、自然への理解が一層深まったと感じました。



水木沢郷土の森での自然散策

犬山中学校の木曾総合学習は、木曾川を縁にした上下流域の交流の一環で平成十一年から継続して実施されており、本年度で十七年目になります。毎年国有林の

フィールドを活用しており、当署としても、下流域の将来を担う中学生が森林・林業に理解を深めてもらう絶好の機会と捉え、地元の協議会やNPOと連携しながら木曾総合学習を今後とも支援していきたいと考えています。

「飯山市フラワーロード事業に参加」 飯山市国道二一七号線バイパス

【北信署】気象庁が「関東甲信地方が梅雨入りしたとみられる」と発表した六月八日、勤務時間終了後、清水署長はじめ職員十四名が飯山市のフラワーロード事業で汗を流しました。

この事業は、昭和六十三年の国道一一七号線バイパス完成を機に延長二キロメートルの間を花で飾ろうと始ったもので、平成十八年から西回り沿線が加わり、総延長は七・五キロメートルにも及んでいます。このうち、四キロメートルの区間を各地区や学校、官公庁、企業等四十五団体がそれぞれ分担して花を植栽し、九月上旬まで除草しながら大切に育てます。県内外から訪れた方々にも大変好評を得ており、全国的にも珍しい市民が誇れる活動の一つになっています。

今年には、ピンカ（ピンク・白）、アゲラタム、シヨウメイギク、ガイラルディア、バーベナ、サルビアの六種類約一万五千本が植栽されました。

北信森林管理署が担当する四十五区間には車道側にバーベナ、歩道側にサル



職員による植栽

ピアを各々四十五本づつ計九十本を植栽しています。梅雨明けとともに、色とりどりの花々が一斉に咲き揃い、行き交うドライバーや同乗者の心を和ませてくれることでしょう。

飯山市にお越しの際は、美しい花街道に目を奪われて事故を起こさないよう「安全運転」でお願いします。

地元高校生が治山工事現場を

見学・実習

〔東濃署〕五月二十日、快晴の中、岐阜県立恵那農業高等学校環境科学科の三年生三十七名が、東濃森林管理署管内の国有林で、治山工事現場の見学・実習を行いました。

これは、近年、局地的な集中豪雨など

による山地災害が頻発する中で、地域の未来を担う高校生に森林土木について理解を深めてもらい、また進路決定の参考にしてもらおうと昨年度より始めた取り組みです。

当日は、同校で国有林の役割や治山工事の目的・工法等について東濃署治山グループの職員から事前説明を受けた後、湯舟沢国有林（中津川市神坂）に移動し、恵那山（二、一九一）の稜線近くで行われている姥ナギ沢復旧治山工事現場を見学しました。



教室での事前学習

同現場では、崩壊斜面の源頭部に登り、署員や工事を請け負った工社の現場代理人から、山腹工事の方法などについて説明を聞きました。生徒たちは、谷底まで三百メートルもある目前の斜面で実際に使われたロッククライミングマシン

（急斜面にワイヤーで吊され崩壊地を整斉する重機）の写真に見入り普段目にするのではない治山工事のスケールを実感したようでした。さらに、整斉後の斜面で法面工事を行う現場作業員が命綱をつけて山腹法面の降下を実演したあと、同社が毎日行っている命綱を体に固定する安全ベルトの点検作業を実習しました。



安全ベルトの点検を実習

午後は、同国有林内の造林地で、署員から間伐などの人工林の管理についてや造林作業の効率化のため普及が期待されるコンテナ苗についての説明を聞き、この春にコンテナ苗が植栽された箇所を見学しました。

また、今回ご協力いただいた工社の現場代理人は同校卒業生でもあり、先輩が颯爽と働く姿に触れ、話を聞くことができた生徒たちにとって今後の進路を考え

る上でよい経験となったようでした。

標高千四百メートルという厳しい環境の下で行われている治山工事を目の当たりにし、生徒からは、「森林管理署の仕事は私たちの生活と深く結びついていて、欠かすことのできない仕事だと感じた。」「危険な現場で働いている人たちがいるからこそ私たちは安全に暮らしているからこそ私たちは安全に暮らしていると思った。」といった感想が聞かれました。当署としては、高校生が森林土木に関する関心を高め理解を深めることができるよう、今後も工事現場を実際に見ていただく取り組みを進めていくことにしています。



〔飛騨署 甲森林事務所〕

首席森林官 上島弘幸

甲森林事務所は、岐阜県高山市朝日町に所在し、飛騨川の支流、青屋川及び秋神川の源流域の国有林約八千鈔と官行造



胡桃島国有林から望む御嶽山麓

(9) 平成 27 年 7 月



御嶽山麓の胡桃島キャンプ場

林地約三百畝を管理しています。

当部内の御嶽山麓の秋神エリア(胡桃島国有林)は、亜高山帯の森林で御嶽山県立自然公園に指定されており、山麓には胡桃島キャンプ場が開設され、夏休み期間は多くの家族連れが訪れています。

この御嶽山麓を通過する県道御岳山朝日線の沿線は、亜高山帯のシラベ、アオモリトドマツ、シラカバの原生林、カラマツ人工林など、多様な森林生態系が見られます。

また、甲エリアの鈍引沢国有林は、秋神ダム周辺に一〇〇年生のヒノキもあり、森林整備のための路網の開設とともに計画的な間伐を行っています。

昨年は、八月の高山豪雨災害、九月の御嶽山噴火(長野県側)、十二月の飛騨

地方大雪災害などの自然災害の発生により、倒木や林道などに被害を受け事業地の変更を余儀なくされ、情報収集や地元との連絡調整等に奔走する一年となりました。



秋神白樺原生林

平成二十七年度はこれらの災害関連復旧事業の実施とともに、間伐千二百立方、新植十六畝(一部コンテナ苗を導入)、本数調整伐等一〇〇畝を計画しており、現在、事業の最盛期を迎え、現場作業では足場、足元に注意し災害の未然防止に努めていきたいと思えます。

地域の観光については、御嶽山噴火の風評被害等により来訪者が減少したことから、高山市と下呂市では、今秋に御嶽山麓で復興マラソン大会(チャオスキー

場から濁河温泉までの約十キロを往復)の開催を計画し、近隣の高地トレッキング施設や秋神温泉、濁河温泉のPRとともに来訪者の増加を期待しています。さらに、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、千間樽国有林及び胡桃島国有林をフィールドとした高地トレーニング施設等への海外からの集客などに積極的に取り組んでいます。



秋神ダム周辺のヒノキ高齢林分

また、秋神川源流域にある一軒宿の秋神温泉では、氷点下一〇度の冬の自然を逆手に取り、昭和四十六年から氷の芸術を鑑賞できる「氷点下の森」という取り組みが行われています。



幻想的な秋神温泉「氷点下の森」(12月~3月)

近くにお越しの際は訪れてみてはいかがでしょうか。

人のうごき

林野庁人事

七月十五日付

▽農林水産技官

林野庁森林整備部計画課付

中部森林管理局出向

計画保全部計画課付

(外務省在広州日本国総領事館領事)

高麗泰行

行事・会議等の予定

◎「木曾悠久の森 現地見学会及び

ワークショップ

8月19~21日 東濃署、木曾署管内



「やさか地域」って？

「やさか」と聞いてご存知の方は少ないかと思えます。

平成十七年二月にいわゆる「平成の大合併」が中津川市で行われました。この中では、全国的にも稀な「廃置分合決定告示」（長野県木曾郡山吹村を廃しその区域を岐阜県中津川市に編入する）がされ旧山吹村も岐阜県中津川市となりました。

旧来より交流があった山口村、坂下町、川上村の頭文字を取って「やさか地域」として三つの地区が観光などのPRを行っています。今回はやさか地域の観光について紹介します。

◆旧山吹村

観光の目玉としては、馬籠宿があります。云わずと知れた観光地でいさらの説明は省略させていただきますが、斜面に立ち並ぶ宿場の面影や島崎藤村の生地としてあまりにも有名です。

◆旧坂下町

坂下地区には、古くからの観光地に加

え、昭和四十四年に第一回全日本フォークジャンボリーが椈の湖で開催されたことを記念して、平成二十七年四月に「フォークジャンボリー記念館」が中津川市坂下総合事務所内に開館しました。平日のみの完全予約制での拝観となりますが興味がある方は一度足を運ばれてはいかがでしょうか。



現在の椈の湖

◆旧川上村

川上地区には「夕森公園」があります。年間約十五万人の来訪者があり、入り口にはかつて活躍した森林鉄道の機関車が訪れた人々を迎えてくれます。

公園内には、「竜神の滝」「銅穴の滝」などの滝めぐりや、一〇〇を超えるバンガローでのキャンプなど滞在して自然を楽しむことも可能となっています。



公園入口のディーゼル機関車

また、毎年、十一月上旬には「夕森もみじまつり」が開催されます。カエデを中心とした色鮮やかな紅葉が訪れた人の目を楽しませてくれます。なかでも大きな石の上に根を張りバラ



勇壮な竜神の滝

ンスを保ちながら成長しているもみじがあります。その姿から「ド根性もみじ」と名付けられ、その鮮やかな紅葉とともに「夕森公園のシンボル」となっています。まだまだ見る、遊ぶ、食べるに事尽きない地域です。一度、訪れてみてはいかがでしょうか。



紅葉した「ド根性もみじ」

◆アクセス(夕森公園)

〔公共交通機関〕

JR中央本線坂下駅下車、北恵那交通バス「夕森公園口行」約二〇分

〔自家用車〕

中央自動車道中津川IC〜国道十九号線を北上、弥栄橋交差点を左折し川上方面へ、案内看板により夕森公園